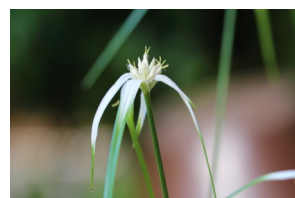
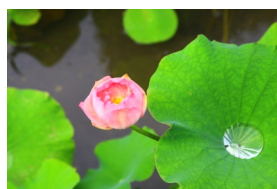
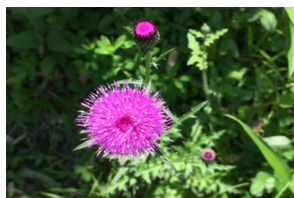


お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～



はじめは対岸の火事だと思っていた新型コロナウイルス。それが瞬く間に全世界に拡大し、人々を恐怖の坩堝るっぼに陥れた。世界中の指導者が「コロナとの戦い」を宣言し、国境は閉鎖され、街から人々の姿が消えた。しかし、そんな努力の甲斐もなく、感染は世界中に広がり、今では、感染者が一千万人、死者が五十万人になろうとしている。どうやら「コロナと戦う」という考え方は、間違いだったようだ。人間とウイルスは、いのちの歴史のはじめから、持ちつ持たれつしてきた兄弟のような関係にあるらしい。今、ようやく、「コロナとの戦い」にかわって、「コロナとの共存」ということが言われた。ただし、自分の都合の良いよう「コロナとの共存」を考えるなら、それは「コロナとの戦い」と同じであろう。一度、人間の都合でものごとを考えることをやめたら、どうか。都合を離れば、すぐ分かる、地球と人間は、一心同体の不二ふにの関係にあることが…。ところが人間は、その道理を忘れ、その道理に逆らって、人間の都合ばかりを地球に押しつけてきた。その結果、地球は人間を巻き込みながら、悲鳴をあげ続けている。洪水に干ばつ、汚染された空や海、新型コロナにバツタの大発生…「人間よ、謙虚になれ!」と、天地が叫び声を上げている。たとえ自分に都合が悪かろうと、すべては自分の父母兄弟である。謙虚になって、コロナを自分の分身と受け取り、コロナが発する声を聞いていく、そこがコロナとの共生の第一歩となるであろう。

新型コロナウイルスとどう付き合うか

佐藤第二病院長

田畑正久先生に聞く



新型コロナウイルスとは

どんなウイルスですか

昨年十二月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルスは、今では、八〇〇万人以上が感染し、四〇万人以上が亡くなっています。

「ひびき」編集部では、念仏者として患者の治療にあたっておられる田畑正久先生に、この原因となったコロナウイルスについて医学的な知見をお聞きするとともに、仏教の智慧によって、この問題を私たちはどう受け止め、どう付き合えばよいか、お聞きいたしました。

治療方法はありますか

新型コロナウイルスについては未知数で、どんな治療方法があるかわかっていません。今はウイルスを制御する技術がないので、自然の治癒

力によって回復を待つしかない。そのためには免疫力を高めることが大切です。

一つは、日常生活で栄養をとり体力をつけることです。もう一つは、ストレスをなくすことです。それには仏教の智慧が大切ですね。

仏教は病気を治すものではなく、病人を丸ごと救うものです。仏教の救いと病気を治すことは別物と知り、病気は医療関係者にお任せする。そして、あとは「なるようになれ、お任せします。なんまんだぶつ」となれば免疫力が高くなり、結果的に一番良い方向に行く可能性があります。

終息の見込みは

この新型コロナウイルスがどんな終わり方をするか、今はまだ見えていません。とにかく、ワクチンが出来るか、国民のほとんどがかかって集団免疫を持つまでは終わらないでしょう。ロックダウンも外出自粛も、感染の先送りをしているだけでは、感染が終息したのでは

ありません。

今年の冬、コロナウイルスの感染拡大の第二波がきたら、病院ではインフルエンザの患者とコロナの患者との見分けがつかず、大混乱がおこり、医療崩壊がおこるかも知れません。そんな心配をしています。

アジアと欧米諸国との

違いは

新型コロナウイルスによる死者の数が、日本を含むアジア地域は欧米に比べて際立って少ない。

これはあくまで類推ですが、アジアの人々は新型コロナウイルスに対してある程度免疫をもっていたのかもしれない。

また、アメリカで感染者や死者が多いのは、日本のように国民皆保険でないことが大きな原因になっています。貧しい黒人やヒスパニックの人は病院に行けないし、病気になるっても仕事に行かざるをえない。

保険制度、社会制度、衛生感覚、経済力など、総合的な観点がある。学者が百

人いれば百の説を言うかも知れませんね。

PCR検査について

PCR検査の正確度は七割から八割程度。かかっていないかどうか保証できないし、たとえ検査で陰性としても2〜3割の人は陽性の可能性があります。

それにしてもPCR検査が日本でなかなか進まなかったのには、いろんな理由があるらしい。一つは経費の問題で一つ検査をするにも一万八千円もの経費がかかる。増やすためには、試薬も輸入しなければならぬ、器械数や検査技術者にも限度があったようです。また厚生労働省の利権の問題もあったという噂もありましたね。

人間は全体的な存在

(問) 人間という存在は、仕事、家庭、教育、地域社会などの関係を生きている全体的な存在であるはずなのに、コロナ騒動が始まってからあまりに病理学的すぎないか。仏教で考えた時、

このコロナの問題をどう見たらいいのか？

(田畑) 人間は様々な関係の中を生きており、病気というものもそうした関係の中の one of them (たぐさんの中の一つ) であって、病気がすべてではありません。今の日本社会は「健康」や「長生き」が目的みたいになってしまっている。ある人が「手段や方法を目的にするのを趣味という」と言われていたが、健康で長生きが目的になっている。今の医療界の問題点でもある。

良寛さんの教え

江戸時代の曹洞宗の僧侶で歌人の良寛さんは「**災難に遭う時節には災難に遭うがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。これはこれ災難を逃る妙法にて候**」と言われました。これが仏教の視点ですね。

たまたま自分がコロナにかかったら、「これが私が引き受けるべき現実、なんまんだぶ」と、念仏で受けとめて生ききっていく。それで結果的に死ぬことにな

るかもしれないが、一日一日を「あることかたし」で生きさせて頂いているなら、死が今であっても、一週間後であっても、一年後であっても、「お任せします、なんまんだぶ」という生き方ができる。病気になったらどうしようと取り越し苦労をしてストレスで免疫力を落とすより、その方が免疫力が上がって結果的にはいいのではないのでしょうか。

人間である以上は必ず死ぬ。いつ死んでもおかしくない。そういう覚悟をもって今日一日を過ごしているか、と問いかけてくる教えに出会っていくことが大切だと思ふ。

コロナは昔の親戚

(問) 小池東京都知事は「ウイズ・コロナ(コロナとの共生)」ということを言いだしました。コロナウイルスは友達でしょうか、それとも招かざる邪魔ものでしょうか。

(田畑) 昔の親戚かな。遺伝子的には自分の身内でもあります。それはガンでも

同じです。ガンも自分の身から出たもの。付き合っていくしかないですね。

コロナと戦うのか

(問) コロナウイルスに対して、①いけないものとして「戦う」というのと、②仕方がないとして「上手に付き合う」というのと、③ウイルスも尊いと「頂いていく」というのと、三つの考え方があると思いますか、いかがでしょうか。

(田畑) コロナを敵だという場合、コロナを自分の外に対象化して見ている(三人称的關係)。仏教ではそれを人間の分別という。それに対し仏教の智慧は「依正不二(えしょうふに)」

といつて、私と外の環境はピタツと一つに繋がっているとみる。つまりコロナも自分と切っても切れない關係のものとする(二人稱的關係)。そして、コロナは私に何を気づかせようとしているか、目覚めさせようとしているか、教えようとしているのか、と受け止めていくことです。

コロナ騒動を通して何を学ぶか

人間は今まで自然を分別して管理支配しようとして来たが、このコロナ騒動を通して、人間は自然の中の一つの存在であり、縁起的存在であったことを確認させられている。

百年に一度のパンデミックというが、東北大震災にしても神戸の大震災にしても地球の歴史から見ればごく自然のことです。今度のことを通して、人間が自然を思い通りにしようとしている傲慢さを教えられることです。自然を管理支配するのでなく、自然の中で生きていくしかないですね。

延命でなく質的長寿を

(問) 「自肅警察」という言葉が生まれてくるように、コロナをめぐって排斥や差別がおこっているが、先生はどう思いますか。

(田畑) コロナを怖がる心をたどると、死を怖がる心にいきつく。死の解決が出来ぬまま、死を先送りする

ことばかりしか考えてない。仏さん(無量寿)の世界、永遠に出遇うと、「いつ死んでもいい。いつまで長生きしてもいい。お任せします」に導かれ、量的な長生きではなく、質的な長寿ということ、仏教から教えてもらおうことになります。

生きていくことは「当たり前」ではないんですね。無量の因や縁によって支えられ、生かされ、教えられ、願われてある私です。「有ること難し」の一日一日を過ごさせて頂くという感覚を、仏さまの智慧で研ぎ澄まさせて頂くことが大事なんではないでしょうか。

映画の中でガンの末期患者さんが「皆さんに明日が来るのは奇跡です。それを知っているだけで日常は幸せな事だらけで溢れています」「すごいね、生きていくって。奇跡だよ。色んな人に支えられて生きていくんだよね。私、これで元気になったらすごい人間になれると思う」と言われていました。

(文責 ひびき編集部)

響流山勝福寺
宗祖親鸞聖人 恵信尼公
七百五十回御遠忌
事業報告 並 会計報告

記念事業

二〇一七年に思い立った御遠忌事業も昨秋の御遠忌法要をもって円成することができました。これも門信徒皆さまの願いが一つになれたおかげだと慶んでいます。まことに有り難うございました。つきましては、六月二十四日開催の総代会にて承認された「御遠忌事業総括」と「御遠忌会計決算」をご報告して、御遠忌事業を完了させていただきます。

勝福寺住職 藤谷知道
御遠忌委員長 向野茂

御遠忌テーマ

「親鸞さまなぜ お念仏なの！
 ー 出会おう 語ろう 今こ
 こでー」

御遠忌テーマ作品募集

絵・書・手工芸・写真・随想
 短歌・俳句など89点の応募
 ＊作品は御遠忌当日、勝福寺座敷に展示。

お待ち受け聞法会

【前半10回】住職「釈尊の生涯と教え」「親鸞聖人の生涯と教え」 坊守「念仏生活を妙好人に学ぶ」

「勝福寺運営規則」策定
 「勝福寺総代会規則」を見直し、総代会のほか教化委員会や法要会計等も含めた「勝福寺運営規則」を新たに策定した。

内陣荘厳御修復

中尊関係（上卓・輪灯・瓔珞・金灯籠） 御開山関係（厨子・前卓・輪灯瓔珞・金灯籠） 折障子・掛け軸「蓮如上人御影」
 施行：（株）はせがわ美術工芸

御遠忌法要

二〇一九年十一月二十三日
 恵信尼公七百五十回御遠忌法要

音楽法要（コールハイマート）
 お抹茶接待（中園れい子社中）
 記念法話 渡邊愛子師
 御遠忌慶讃音頭（かはづの会 薩摩琵琶「花ごぶし」）
 演奏・櫻井亞木子氏

同二十四日

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
 法要（宇佐組法中・楽付）
 記念法話 狐野秀存師
 一人芝居「むつれじまのお軽」
 記念講話「勝福寺縁起」
 餅まき

御遠忌会計決算

【収入の部】

勝福寺一般会計より
 一、〇〇〇、〇〇〇
 勝福寺永代経積立金より
 三、六〇〇、〇〇〇
 御遠忌御懇志
 三、五三七、六〇〇
 お待ち受け聞法会・会費
 三五九、五〇〇

【支出の部】

御仏前
 二九〇、一七九
合計 九、九七七、〇七九

【収入の部】

内陣荘厳修復費
 三、九二四、〇〇〇
 御遠忌法要
 二、〇〇四、七四八
 お待ち受け聞法会
 九九四、一九八
 印刷製本費
 一、九四三、七四〇
 その他
 四六八、五一六
合計 九、三三五、二〇二
 （単位：円）

収入から支出を差し引いた
残金、六四一、八七七円は「勝福寺宮簿特別会計」に繰り入れました。

退任あいさつ

総代会会長 向野茂



平成25年に山本裕敬さんのあとを受けて会長を務めさせてもらいました。思えば、未熟な私を多くの方々に支えて頂いたことに、改めて感謝申し上げます。喧騒な日常生活の中において、勝福寺の静寂な環境、知道住職・坊守さんに老坊守さんの温かな眼差し、役員皆さんの心遣い、法要や研修会にお出でて下さる多くの皆さんの笑顔に支えられて楽しく努めさせてもらいました。

親鸞聖人・恵信尼公七五〇回御遠忌法要がコロナ禍の前に終了出来ましたことはこの上ない幸運だったと喜びたいものです。
 南無阿弥陀仏

**総代会長六年間
 ご苦勞様でした！**

二〇二〇年度 総代会報告

6月24日に総代会が開催され、二〇一九年度の事業報告及び法要会計決算と二〇二〇年度の事業計画案及び法要会計予算案が承認されました。
また、「親鸞聖人・恵信尼公七百五十回御遠忌」の事業報告及び決算報告が監査報告と合わせて行われ、残金六四一、八七七円を営繕特別会計に繰り入れることが承認されました。

二〇二〇年度事業計画

法要日程

- ① 秋季彼岸会 並 永代経
【日程】 9月24・25日
【講師】 兪漢子先生
- ② 報恩講
【日程】 21年1月22～24日
【講師】 未定
- ③ 春季彼岸会 並 降誕会
【日程】 21年4月2・3日
【講師】 未定

研修事業

- ① 「御名を聞く会」

毎月28日 午後一時半～
講師 外部より招聘(五回)
住職・坊守(四回)

② 「はじめの一步」

冥加金 千円
毎月第二土曜日 午後一時半～(九月スタート)

今年度は「お内仏のある生活」をめぐる話し合っしていきたいと思えます。
参加費 無料

教化活動

- ① 仏教婦人会「かはづの会」
研修会、清掃奉仕、親睦会などを実施

② 「たんぼぼ子供会」

春、夏、冬休みに実施

③ 「平和の鐘」を撞く集い

8月15日

④ 「忘れなの鐘」を撞く集い

3月11日

⑤ 「ひびき」年四回発行

本山納金並びに

法要御法札について

- ・秋季彼岸会 並 永代経
御法札 二千元
- ・本山納金(前期) 千円
- ・報恩講
御法札 三千元
- ・お初穂お華束米 五百円

・春季彼岸会 並 降誕会

御法札 二千元

本山納金(後期) 千円

二〇一九年度法要会計 決算報告

総収入一、一三六、二三七円に対して総支出九九六、三一九円となり、差引残額一三九、九一八円を営繕特別会計に繰り入れました。その結果営繕特別会計の積立額は合わせて七八一、七九五円となりました。

総代会役員改選

今年度は、三年に一度の改選の年です。向野会長・渡辺輝幸副会長・丸野・瀬々常任委員の四名が役を引かれました。そして新たに、会長に渡辺和義さん、副会長に香田紀子さんと渡辺重昭さん、事務局長に牧本和孝さん、会計に松本順さんと小林聖さんが選任されました。また新たに、常任委員に婦人会長の若林範子さんと小林聖さんに入っていました。三年間、よろしくお願ひします。

総代会会長就任挨拶 僧伽を大事に 渡辺和義



このたび、はからずも総代会において会長に選任されました。歴代の錚錚たる会長職の中に私のような者が混じってよいものかと考えましたが、これも仏縁と思ってお受け致します。

した。

前任の向野会長には六年間の長きにわたり会長職を勤めていただき誠に「苦勞でございました。向野会長の下で「七五〇回御遠忌」を無事に厳修することができましたことは門徒一同にとって誠に有り難いことでした。

二年ほど前になりますが、本山中で研修を受けたとき、自己紹介で宇佐の勝福寺から参りましたと話したとき、「ああ、あの聞法の声の絶えない

お寺ですね」といわれ嬉しかったことを思い出します。勝福寺の百日聴聞会は、全国に知れ渡っているようです。

私は、同朋会を縁として勝福寺にお参りするようになりましたので、やはり御同行御同朋の皆さんと共に聞法していく僧伽を大事にしていきたいと考えています。

大役ですが自分なりに勤めたいと思います。どうかよろしくお願ひ致します。

婦人会長を交代するにあたり

松尾 由美子



六年間にわたり婦人会長をつとめさせてもらいました。何もわからないまま坊守様や先輩の指導のもと始まりました。

勝福寺に通い始めて二年目のころ、夫の病気が悪化し五月に浄土へ還ることになりました。突然の事でした。そのころ私の中では時間が止まったのですが、気がつけば世間

楽しい婦人会に

若林 範子



思いもよらない新型コロナウイルスという目に見えないものへの恐怖

と、長い外出自粛をして、このままじつと家にいても良いかなーと思っていましたら、婦人会の役員改選の時期になり、新たな役員に、副会長は引き続き渡辺久仁子さん、会計は麻生恵子さんが受けて下

は、普段通り動いていて、何とかお寺に通うことができました。

チャリティーバザー、報謝の日など、行事をこなしていきましたが、新しい取り組みもありませんでした。卒業のつもりで、親鸞様、恵信尼様の足跡を訪ねて新潟へ研修にいきました。すばらしい研修でしたが、風邪をこじらせ肺炎になってしまい、やっと帰りついたので思い出します。結局、会長を卒業できませんでした。

親鸞様七五〇回御遠忌法要に向けて二年間に渡る準備と

さり、私に会長をと、お話をいただきました。以前、松本知代さんが「勝福寺さんの依頼は、ノーと言われないよ」とよく言われてましたので、前会長の松尾さんの天真爛漫で、何にでも真剣に取り組んで、とても楽しかった婦人会を受け継ぐことにしました。足を引っ張ることになると思いますが、このご縁をいただき、任期を勤めさせていただきますと思います。皆さん、ご一緒に楽しい婦人会にしてゆきましょう。よろしく願います。

聞法の手伝い等が始まりました。京都の研修にも参加しました。

七五〇回御遠忌法要が二日間にわたり、厳粛、荘厳に行われ、始めての体験と緊張そして充実感と安堵で無事法要を終えました。

六年目、世界を揺るがす新型コロナウイルスが発生しました。人間の生きざまを考えなおす時期なのでしょう。

婦人会長という大役でしたが、皆さまとの和をもって終えることができ、たくさんの事を学ばせていただきました。ありがとうございます。

婦人会活動

- 一、「8・15 平和の鐘を撞く集い」
- 一、「3・11 忘れなの鐘を撞く集い」
- 一、両彼岸のおやつ作り
- 一、寺院内外の清掃

新会員募集中

現在婦人会員の多くが加齢のため活力の弱が目立っています。しかし、女性パワー（老人パワー）を奮発して頑張ります。ぜひとも、新会員の参加をお待ちしています。

たんぽぽ子ども会

世話人代表 牧本和孝



たんぽぽ子ども会は春・夏・冬に子供さん達に有意義な思い出に残る休みに送って貰おうと一九九九年に始まりました。

数回のお休みはありましたが、20年間にわたって54回開催されております。住職さん・坊守さんはじめ沢山の方々が寄り合ってお世話させていただいています。

春夏は野外での滝川遊び・サイクリング等を、屋内ではゲーム・工作等を工夫して盛り



たくさんのお子さんの参加をお待ちしています！

り込んでいます。子どもさんたちに人気なのは遊んだ後の食事です。婦人会の方々が心を込めて食事、デザートづくりに奮闘されています。

子どもさんたちの参加は多い時で30名近くでしたが最近では十数名と少ない状態です。それぞれがスポーツや習い事などでスケジュールのやり繰りが大変でしょうが、なるべく早めに開催日時を連絡するようにします。沢山の子供さんに参加をお願いしたいと思います。

【御名を聞く会】

7月28日1時半
講師 宮岳文隆師
講題 「親鸞さまなぜお念仏なのー発遣と招喚の呼び声」

編集後記

ひびきは年四号発行を目的としています。本来であれば四月に96号が発行されていたんですが、今回、新型コロナウイルスの影響で勝福寺の行事も止まってしまい、ひびきも七月に延期させていただきました。ようやく活動制限も解かれました。勝福寺でも新しい陣容で二〇二〇年度がスタートします。その様子をひびきを通して皆様にお伝えしていきます。ご期待下さい。

(渡辺 重昭)